

事業名	「今、片づけようと思ったのにかからの脱出」				
ジャンル	家庭教育 ・ 青少年教育 ・ 成人教育 ・ 団体育成				
事業分類	実際生活に即する教育 学術及び文化に関する各種の事業 (社会教育法第20条「公民館の目的」より)				
事業意図	住民の教養の向上 ・ 健康の増進 ・ 情操の純化 (社会教育法第20条より)				
事業目的	生活文化の振興 社会福祉の増進 (社会教育法第20条より)				
日程	令和5年7月4日(火)	講師	整理収納研究所 代表 桑原 美栄子	参加費	—
対象者	成人	参加者数 (延べ)	5人	募集方法	佐倉市LINE
趣旨	家庭での片づけに悩まれている子育て世代の方に向けての学習機会を提供する講座を実施する。 また、保護者の悩みに寄り添うことで、子育てを応援する。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3名1組のグループワークを中心に行った。 ・ 「整理」「収納」「片づけ」「整頓」について、それぞれの違いを明確にし、今回は「片づけ」を中心とした講座を行った。 				
工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 募集記事を佐倉市LINEで配信し、申込を「ちば電子申請サービス」で受付けた。 ・ 志津市民プラザ内にある志津児童センターに協力してもらい、事前に子ども達を対象とするアンケート調査を行い、講座内容に反映させた。 ・ 会場にキッズスペースを用意した。 				
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 片づけをするために保護者としてどうするか学ぶことができた。 ・ 少人数での講座により、受講者の悩みに丁寧に答えながらの講座ができた。 ・ 日々の生活で片づけしたくなる習慣について、イメージすることができた。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加申込が少なく、追加募集を行った。 ・ 当日までのキャンセルも多く、参加者が少なかった。 【定員：20人、申込者(決定者)：13人、参加者：5人】 ・ 座学での家庭教育講座は毎回応募や参加が厳しい傾向がある。 				

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館が行う必要があるか。 ・ 市民や利用者のニーズに合っているか。 ・ 目的や役割が薄れていないか。 ・ 事業の休止・廃止した場合の影響は大きいのか。
優先性	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の優先度は高いか。
公平性	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象者に情報は流れているか。 ・ 受益者負担はあるか(実費・教材費)
有効性	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期待通りの成果が得られているか。 ・ さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。 ・ 市民の満足度は高いか。
効率性	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性はどうか。 ・ 事業運営に学習者が参画しているか。 ・ 他事業との統合は考えられるか。
総合評価	B	A：適切で成果が得られている。 B：課題あり、成果はある程度ある。 C：課題あり、成果があまりない。 D：成果が得られていない。
特記		

《凡例》 良い ← A B C D → 良くない	《判定例》 <table border="0"> <tr> <td>A } [A]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [B]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [A or B]</td> </tr> <tr> <td>A } [A]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [B]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [B]</td> </tr> <tr> <td>A } [A]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [B]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [B]</td> </tr> </table>	A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [A or B]	A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [B]
A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [A or B]												
A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [B]												
A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [B]												

次年度展望	②	①：事業拡大 ④：目的達成により終了	②：現状規模で継続 ⑤：統合・改善・その他	③：事業縮小
-------	---	-----------------------	--------------------------	--------

☆公民館運営審議委員付帯意見

(A：適切で成果あり B：成果はあるが、改善の余地あり C：要改善)

委員①		テーマに魅力がある。
総合評価	A	

委員②		わが子も片付けが苦手であるが、子育ての段階で違った声かけ・アプローチがあったのではないかと反省することがある。そういった悩みを持っていたり、子育ての参考にしたいと思っていたりする保護者にはとても良い企画であると考えます。また申し込み方法やキッズスペースを設けるなど、十分工夫もされている。しかしながら参加者数が期待以上に伸びなかったこと、当日欠席が多く出てしまったことには、何らかの理由があると考えます。座学の難しさも一因と思われるので、体験的な要素をもっと取り入れ、それを盛大にアピールすることが、参加者数の拡大に繋がるかもしれない。
総合評価	A	

委員③		魅力的な話であるが、参加人数に響かず。
総合評価	B	

委員④		内容を見る限り、希望者が増えるようには思えません。テーマ選びが良くなかったと思います。
総合評価	B	

委員⑤		若い世代まで申し込めるような事業名の方が良いかなと思います。ちょっとかたくろしく見える。
総合評価	B	

委員⑥		毎日生活するにあたり、片づけは必要不可欠です。子育て世代の方々は子どもに対してどのように接したらよいか悩んでいる方が多いかと思えます。解決策が見つかり子育てを応援するよい講座でした。
総合評価	A	

委員⑦		担当職員の努力とは裏腹に参加者が集まらない状況に、悔しい同じ思いをしています。20人の定員に対し、参加者5名では一考を要すると思います。事前実施したアンケートは事業に反映され、少数ながら参加した保護者にとっては有意義だったようです。25%の参加率はそのまま継続してもいいというわけにはいかないでしょう。今後については市内6館の担当者による意見交換などを通じて改善すべきだと思います。
総合評価	C	

委員⑧		〇このテーマは子育て中の保護者に対して鋭い視点で取り組んだと思います。しかし、参加者が少なかったことはどこにその理由があるか考えてみると、恥をさらしたくないのかもしれませんが。密接なコミュニティなどが結ばれている地域なら、共通の悩みとしてオープンに問題解決を目指すでしょう。参加者には、むしろうまくできた片づけを紹介してみませんか?の様な呼びかけなら、地域柄手が上がるかもしれません。「整理」と「整頓」の基本的な違いをわかって、日々の生活に生かしている人にプラスαのテクを学んでもらえたら良いです。
総合評価	A	

委員⑨		片付けはどこ家庭でも課題ですが、「子育て世代」に向けての講座」として募集したところ、参加者はわずから人という結果は改善の余地ありですね。参加対象者に向けてのPR方法も考えてみてください。
総合評価	B	

委員⑩		子供が遊んだ後の片付けで悩んでいる保護者の方は大勢おられると思います。そのような保護者の悩みを少しでも解消してあげようという保護者応援の講座で、子育て支援の環境づくりの一環だと思いました。参加者された方は片付けを指示される場合、片付けの置き場所が決まっているとか、置き場所が使い易い、などを子供が認識していないとうまく片付けられないということを理解されたと思います。また、片付けをさせる場合、命令調では無く子供の尊厳を傷つけないような言動が大切だと分かりました。今回は応募者のキャンセルが多かったようですが、家庭教育として続けて行かれたら良いと思います。
総合評価	A	

委員⑪		テーマに一工夫必要。 必要性のない家庭もあり、悩みの問題を取り上げるのは一般的でないのかも。しかし子育て支援は重点施策です。市全体として、公民館の役割を明確にする。
総合評価	B	

委員⑫		「今、片付けようと思ったのだからの脱出」とは、テーマ的にもとても面白い発想だと思いましたが、参加者が極端に少なかったのは、「整理」「収納」「片づけ」「整頓」は、一般的には日常で普通に行われていることであり、これを学びたいというほど興味を引くものではなかったからかもしれません。極端ではあるかもしれませんが、例えば「断捨離」のやり方とそこで出た品物はどう処分したらいいか、または売れるか等、どのような講座が市民を引きつけるのか、一考の余地があるのではないのでしょうか。
総合評価	B	

委員⑬		1. 事業内容は今の現代社会にマッチした内容。 2. 参加者5名は事情は分かるが少ない。 3. 対象範囲を検討してもっと参加者が多くなるように企画すべき。
総合評価	B	

委員⑭		興味深い家庭教育の事業です。事前調査等、工夫をされてのことと思いますが、参加者が少ないのは何故なのかを検証しましょう。
総合評価	B	

委員⑮		佐倉市LINEの募集が結果的に応募が少ないとの報告ですが、カリキュラム変更やSNSの活用で6年度に期待しております。
総合評価	A	